

岐大通 2010



today's guest

ギラヴァンツ北九州

2009 JFL 第4位

J2通算対戦成績: 1勝0分0敗

■2010成績

第09節 10/04/29 北九州 0-1 岐阜

2010J2 順位表 ■ 第2節

(※消化試合が1少ない)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から見て)

1	柏	52p	+28	43	15	H●
2	甲府	46p	+16	43	27	H●
3	千葉	42p	+22	44	22	A● H○
*4	福岡	40p	+21	40	19	A○
5	熊本	37p	-2	25	27	A● H△
6	東京V	36p	+7	26	19	H● A●
7	徳島	35p	+2	36	34	A●
8	栃木	33p	+7	30	23	A●
*9	鳥栖	33p	+2	28	26	A●
*10	横浜FC	30p	+3	34	31	A●
11	岐阜	29p	-11	20	31	---
12	札幌	27p	-3	24	27	H○
13	愛媛	26p	-6	18	24	H△
14	大分	26p	-8	29	37	A●
*15	水戸	25p	-10	17	27	H○ A○
16	草津	23p	-14	21	34	H○
17	富山	20p	-17	26	43	H○ A●
*18	岡山	19p	-17	11	28	H○
19	北九州	12p	-18	11	29	A○

次回 HomeGame

第2節
大分トリニータ戦

9/23(日) 13:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohri@hotmail.co.jp

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

9/12号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

■編集子より■

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、
よろしくお願い致します。

◆ピッチの中では“手応え”があったようだけど……。 東京V 2-0岐阜【第2節】

●F C岐阜はアウェイで東京Vと対戦し0対2で敗戦。水難事故で亡くなったジュニアユースの選手のために今日だけは勝ちたかった。次こそ勝って少しでも上へ!。これからはサポーターがF C岐阜の応援を。F C岐阜頑張れ! (ハマッチ)

●今季初の3連勝が懸かった一戦。しかも、前日にジュニアユースの桐山選手が海で還らぬ人となってしまったいたましい事件があったばかり。個人的には、何としても勝ちたい試合だったが…。前節の千葉戦での激闘の疲れが抜けていないのか、あるいはバス移動のアウェイ遠征では体調管理が難しいのか。チームには前節とは別人の様に勢いがなく、また悪い状態に逆戻りしてしまったようだった。折角守備陣がボールを奪っても、そのボールをパスミスで前線まで繋げずに奪われ、再び攻められる。中央の密集地帯を突破しようとして、パスの精度が悪いために奪われる。あるいは、ミドルシュートを撃つチャンスがあるのにパスを選択して、結局はシュートで終われない…そんなストレスの溜まる試合展開。

一方、東京Vは「どうやったら岐阜を攻略できるか」を知り尽くしているかのごとき攻撃を繰り返す。我慢して失点を防いだり、あるいはウチに勢いが出ている時間帯もあったが、そこで決められないと、今度はピンチになるのはサッカーの常。結局、後半に2点を決められ、敗戦してしまった。

後で選手や監督の談話、あるいは記事を読んでみても「負けたが手応えがあった」と書いてあった。プロの眼からしたら、実際にそうなのかもしれない。でも僕には、リーグ後半戦になっても改善できていない、「FC岐阜の弱点」を改めて浮き彫りにしてしまったような、そんな厭な気がしてしまった。それが今後は杞憂に終わることを期待したい。(ささたく)

●F C岐阜が初めて国立の舞台に立つ…。なんて言うの大げさだが、この日の会場の西が丘サッカー場も「国立」の球技場。かつては、日本代表の試合も行われたスタジアムだ。何か趣のある専用スタジアムでの試合を思いっきり堪能したかったけど、昼間からの暑熱が残っているうえに、両チームとも難しい事情を抱えた中での試合になったのが残念だ。とはいえ、岐阜側の事情であるにもかかわらず、東京ヴェルディの関係者の方にはいろいろなお心遣いをいただいた。改めて敬意を表します。

コチラとしては、なんとしても勝ちたい試合だったがまたしても敗戦。確かに、東京Vには経験豊富な選手と才能と技術のある選手が多い。だが、同じJ2で圧倒的な戦力というわけでもないし、最近調子がいいとはいえ順位もそれなりだ。それなのに、岐阜との試合では確かな差を、トラップやパスの質を含めて感じさせられてしまうことが多い。岐阜もチャンスの芽はいくつか作り出している。ただ、最後のパスあるいはそのひとつ前のパスとかのミスで、決定機となりうる場面を自らツブしてしまっている。結局、決定機といえるのは後半の押谷のミドルがポストをかすめた場面くらいかな? あとは、東京のCB土屋とかに潰されてしまっていた。おまけに、もう一人のCB富澤には「キミはボジション、どこだ?」ってくらい積極的に攻撃参加されて、何度も危ない状況を作られてしまった。恭平がよく粘ってくれて、なんとか前半を0-0で折り返したけど、今回もそれが精一杯。それでも、耐えて続けていくしかない。東京Vには、必ず恩返しというか、借りを返さなきゃね。ゼヒ、来年も戦いたい。(ぐん、)

●試合終了後の監督・選手のインタビューに試合のレビューを読んで「ちょ、ちょっと待ってちょうだい?」と思った現地組の岐阜サポはそんなに少数派じゃないんじゃないだろうか。思い出せば、今年の『メドウ』開幕戦の相手がヴェルディだった。あの時はカタク荒れたピッチに戸惑う岐阜の選手達をよそに「ボールを扱う技術」の差を見せつけられたのだけど、この日は「試合に勝つサッカー」を見せつけられた気がしたのだ。トップにロングボールを当てることは一切なし、緩急だけでウチのDFはズッタズタにされ、サポのプライドもズッタズタにされたような気がした。もし、この試合でピッチの中では手応えがあったのなら、それを消化し糧とし今後の試合で披露してもらわないと。そんな試合。(吉田鑄造)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合
アットホームな韓国料理店
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅
から徒歩3分。
休: 日曜日
(今日はお休みです)



◆早過ぎる、“元日国立”への道の終焉。 岐阜 2-3 栃木【天皇杯 2 回戦】

●F C 岐阜は長良川で栃木と対戦し 2 対 3 で敗戦。0 対 3 から 2 点を返したものの 1 点が遠かった……。気持ちを切り替えて J リーグで浮上してほしい。これからもサポーターが F C 岐阜の応援を。F C 岐阜頑張れ！（ハマッチ）

●ボクが見始めてからは、県予選決勝かなんかで負けて本戦に出られなかったことはあったが、初戦で負けたのは今回が初めてかな？ツライというか釈然としないというか……。始まって 5 分も経たないうちに失点して、挙げ句に P 献上した時には「いったい、どうなっちゃうんだろ？」と思ったが。それでも、前半の内に一点返し後半に追加点を入れたことで、とりあえず『試合にはなった』それが救いといえれば救い？岡山は開始早々のどフリーを外してくれたけど、栃木は決めた。この辺が順位が示す力の差なのかもしれん。

それにしても、2 本とも鮮やかなクロスと組み立てだった。前半の、ウチのクロスやプレス・キックが余りにも残念だったんで、余計にそう見えたのかも（苦笑）。それでも、前半ロスタイムの C K は久しぶりにいいキックで、それをまた優大が見事に決めてくれた。後半も、栃木 C B を退場に追い込んだ後はかさに掛かって攻め込み、あわやの場面もいくつかあって、そのうちの一本を吉本が叩き込んだんだけどね…。しかし、岐阜の選手の中には、「仲間に点を取らせよう」と考えてる優しいのが何人かいたような？なんで、いいカタチで P A に進入してるのに、そこでパスしちゃうんだろ？「オレが決めるっ」とはならないのかな？フリーの味方に渡した方が確率は高いかもしれないが、相手が寄せてくるのに、一秒もかかんないんだよ？『メンタリティ』なんて言葉を安く使うつもりはないけど、「アナタ任せ」ではなく「オレが責任持って決めちゃう！」そういうのが、ボクが見たい『戦うキモチ』。たぶん、岐阜を応援しに来た人もそうなんじゃないかな？その辺が J 1 へ行く選手と J 2 の選手の差。そして、クラブで言えばリーグ戦の順位の差になってしまうのかも？それから、シュートは梓へ。いや、確かに当社比というか、ウチにしてはシュートを撃った方だと思う。後半の池上のを始めほとんどのシュートを横から、もしくは遠目に見てたんで、コースの有無とかの子細はわからない。ただ、後半のキャプテンのシュート。角度的にボクの位置からでもキャプテンの背中越しにコースが見えた。しかもフリー。フカした後、相当悔しがってたから本人もわかってはいるんだらうね…。それから前半 0-1 の時の 27 番。クロスをどフリーで待ってる。「決まったっ！」と思った次の瞬間宇宙開発…。アノ場面でダイレクト・ボレーで叩く必要ないと思う。トラップしてカル〜く決めることぐらい、キミなら出来ると思ってるんだが……。どうかな？>押谷

あ、あと、最後の F K の時に何で上がらなかったんだろね？>恭平。カップ戦なんで、一点差でも二点差でも「負け」には変わらないんだが…。相変わらず、先制されると勝てないけれど、それでもズブズブではなく、2 点取った。それも、今季初めて前半で 3 点差つけられながら。だからこそ、余計にもったいなく感じてしまう。前半の内に 1 点取っただけで、栃木が勝手に慌ててくれて、逆転できる雰囲気は確実にあっただけに実に惜しい！橋本のケガは心配だけど、期待感を持たせるような雰囲気ができつつあるのかもしれない。今後のリーグ戦につなげてほしいなあ。今年の冬休みが長くなった分ガンバってください。（ぐん、）

●キックオフと同時にラッシュをしかけ、先制したらいったん守りを固めて試合を落ち着かせ、30 分を過ぎた辺りから再び攻め込む……。そんな栃木 S C の思い描く時間割どおりに進んでいった前半。彼等の思惑と違った部分があるとすれば、ウチが前半終了間際に意地で 1 点返したということだろう。後半に入ってウチは意図の伝わる選手交代であるとか、ディフェンスの選手の果敢な飛び出しであるとか、とにかく一丸となって闘っていたと思う。この一丸になって闘う姿勢を今日のリーグ戦で前後半通じて見せてほしい。（ST57）

●昨年の再現とはならなかった。元日決勝への道はもろくも断たれることとなった。前半早々に、セルフジャッジをしてしまい、一瞬足が止まり、集中を欠いたまま失点。これが重くのしかかる結果となった。P M は致し方ないとは言え、執拗に D F ラインのウラを狙ってくる栃木に対応しきれず、3 失点を喫してしまった。前半終了間際に 1 点を返し、期待を抱かせたが、またセットプレイからの得点で、相変わらず崩しての得点は生まれないという課題は残されたままだ。

後半はだいたい修正ができたようで、吉本のゴールでついに一点差に詰め寄ると、ホームの大声援もあり、押せ押せの展開となり「奇跡」を予感させたのだが、あとたったの 1 点で追いつけるのに、その 1 点が遠い。筆者はこれまでこんなシーンを何度となく見てきた。しかし、今日気付いたのはあまりに攻撃がワンパターンすぎるのではないかという事だ。フリーの味方を使ってサイドに展開する。ここまでは確かにいい。しかし、サイドに展開して深い位置からのクロスを中で合わせる、またはアーリークロスを上げて中で勝負、合わなければセカンドボールを狙う、これの繰り返しだ。これでは相手 D F が守りやすいのも当然だ。遠目からでもミドルシュートを打つとか、角度がなくても打つとか、攻撃に「アクセント」を加える事が必要だし、もっと相手を怖がらせないといけない。形は出来ているのだからあと少しトリッキーなプレーもサッカーに必要な要素だろう。

とはいえ、今日のゲームで見せた、3 点ビハインドからあと一歩まで追いつけた「気迫」「気持ち」は見事。やはりメンタルがモノを言うスポーツだということだ。これでリーグ戦に集中するしかなくなったのだから、今日のような気持ちで残りの試合を戦ってほしい。（レオナルド、ジョン・カリュー、山内選手、そしてオレ、誕生日おめでとう）

●栃木 SC #10・高木和正。昨年まで岐阜の 1 番、東海 1 時代から不動のレギュラー。F C 岐阜を J リーグに導いてくれた功労者の 1 人であることは、誰も疑ったりしないだろう。その和正と、メドウで対戦することになるとは…。しかも（個人的には）『一番負けたくない相手』の一員とは…。昨年と同じ天皇杯初戦の対戦相手だが、昨年よりも思い入れの強い一戦となった。

ところが…残念ながら、向こうは的確な補強を行っているのに対し、予算難のこちらはそれほど。しかも和正を引き抜かれ、かつ F C 岐阜をよく知る彼が弱点をついてくる影響は、やはり大きかった。開始 3 分に左サイドを、よりもよって和正に見事に突破されて精度の高いクロスを上げられ、これをヘッドで決められ、失点。その後、気を取り直して反撃するが、シュートで終われない展開が続く得点を奪えないまま、今度は右サイドからのクロスをもまたヘッドで決められ 2 失点目。その 3 分後には P を献上して 3 点目。前半 38 分で 3 点の大差をつけられてしまった。ここで帰ってしまう観客もいたぐらいの一方的な試合展開。僕も流石に一瞬、気持ちが折れそうになったが、ここからが、普段とは違った。

「ホームで無様な終わり方はできない」という気持ちもあったのだろう、積極的に攻撃をしかける。その成果が実り、前半ロスタイムの C K を西川がヘッドで 1 点を返すと、ようやくスタジアムも活気を取り戻す。そして後半。押谷が P 前に突進したのを、敵 D F が（あれは肘を後頭部に落としてなかったか？）倒して一発退場。その F K はポストを叩いたが、これを吉本が押し込んで 1 点差。スタジアムは更に熱気を増した。

「あと 1 点、しかも相手は 10 人」。ところが、ここで安心したのか疲れてしまったのか（後で知ったが、押谷は脳震盪を起こしていたそう）、選手達の動きが鈍くなって、シュートを撃てるのにパスを選択してみたり、シュートを撃っても梓を大きく外してしまったり。しかも栃木は完全に守備・時間稼ぎにシフトして逃げ切りを図る。あと少しで敵ゴールをこじ開けられる…とスタジアムは熱気に包まれるが、無情にも試合終了の笛。今年のおお天皇杯は初戦敗退となってしまった。3 点差をつけられたのにも関わらず 2 点を返した、選手達の最後まで試合を諦めない気持ちは評価できる。しかし逆に言わせて貰えば、最初からあの気持ちはあれば勝てたんじゃないのかな、と（苦笑）。しかもトーナメントは負けたら終わりなのだから、この試合の入り方は致命的としか言いようがない。この敗戦を糧にして、残るリーグ戦で結果を出して欲しいと強く思う。（ささたく）

◇間違いなく「今シーズン1番の内容」。 岐阜1-0千葉【第2節】

●よく凌ぎきってくれたなあ。両SBもがんばってくれて、アタックでも見所を作ってたし。逆に反省しなきゃならないのはボクの方で、千葉の選手を「昔の名前」で見過ぎていたかも？慶と勇人のボランチっていう、以前なら垂涎モノのコンビやアレックスとか工藤とか茶野。オマケにヤザーまで。当然、かなりの場面で主導権を握られてたし、恭平の神セーブ連発がなければ危なかった……。というのは認める（笑）。それでも、リーグ戦の戦績をイーブンにできた。なんというか、名前に千葉がついたけど、「あのジェフが2部落ちか…」と時の流れも感じるし、またJ2（2部）の中・下位チームが、戦力は劣るうえにコンスタントに発揮できる力は不足していても、いざ試合となれば昇格圏内のクラブといえども楽に勝てるようなリーグじゃなくなってきた、と言えるのかもしれない。確かに、誰が見たって重ねて来た歴史は遥かに違うけれども、カテゴリーが同じである以上格上も格下もない。ウチと千葉は同格。少しも臆する必要はない。それでも…。少し見とれてしまった情景がある。それは、キックオフ前のメドウのアウェイ側の風景。メインとゴール裏しか見えなかったけど、千葉サポのほとんどがタオマフを掲げて選手を迎える光景には、やっぱり羨望と嫉妬を感じたよ（苦笑）。わざわざアウェイまで遠征するような人達だから、タオマフ持ってるのは当たり前なんだろうけど、そのあたりが経歴の差かな。まだまだ、これからだね。楽しみにしていきましょう！（ぐん、）

●これがサッカーの面白さ、怖さなのだろうか。個々の実力差があっても勝てる、なんでもないシュートが入ってしまう。そんなことを思わされたゲームだった。やはり千葉のラインナップを見ると多士済々、実力者が揃っている。さすがは昇格を争うクラブ、と言ったところか。しかしそれだけで決まらないのがこのスポーツの面白さでもあるのだが。前半、やはり攻め込まれる場面が多かったのだが、筆者が気になったのは、「セーフティーファースト」だ。クリアすべきところで変に持ったりして危険な場面を作られたり、苦しい体勢で相手がプレスをかけてきたのなら、リスクを犯してつなぐよりまずは切って流れを止めるべきだと思う。ここでは幸い失点にはならなかったが、命取りになりかねない。しかし思いもよらぬ形から岐阜が先制する。それまでも再三DFラインの裏は狙っていたが、嶋田の鋭いクロスに中で待ち構えていた西川が合わせてゴールネットを揺らした。やはり「シュートを打つ」ということがいかに大切か、ということだ。こういうことも起こるということだ。前半は1-0で終了する。

後半は流れが二転三転する。10分過ぎ、千葉が猛攻をかけるが、これをしのぐと、20分頃から、セットプレイなど再三のチャンスを岐阜が得る。あと一步で追加点、というシーンもあったが、ここで結局ノーゴール。30分過ぎからは再び千葉が猛攻。G野田恭平のまさに神がかり的なスーパーセーブがなければ、逆転負けを喫していてもおかしくはなかった。しかし、筆者がひとつ問題提起したいのは、やはり自分たちから苦しんでいるということだ。20分過ぎと言えば体力的にも一番苦しい時間帯。しかも千葉はどんどんカードを切って勝負にきていて、ここでチャンスをモノにしていれば精神的なダメージは絶大だったはずだ。残りの時間を楽に進めることができたはずだ。試合巧者は本来千葉のようなチームなのだから、とれる時にとっておかないと後で苦しくなる。また、いま中位陣は勝ち点が詰まっており、岐阜は得失点差のビハインドで順位が下がっている。順位を上げるためにも得失点差をリカバーしたい。得点を挙げるしかないのだ。とはいえ、進歩しているところも見られた。終盤の試合の進め方だ。千葉はビハインドしているので攻めるしかない、しかし中盤でパスコースを切って、横パス、あるいは下げさせるような追い込み方をしていく。苦しくなってロングボールを放り込むしかなくなり、精度の悪いボールを奪い、マイボにして、その間に時間も稼げるという寸法だ。まだまだ課題はたくさんあるが、今日の勝利は非常に大きいと思う。（2006年仕事で総武線各駅停車で千葉駅まで行った男）

●FC岐阜は長良川で千葉と対戦し1対0で見事な勝利。前半に西川選手がゴールを決めて1対0と先制し、その1点を野田選手を中心に守り抜き見事な勝利。上位チームからの勝利は大きいね。次も勝って少しでも上へ！これからもサポーターがFC岐阜の応援を。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）
●エルゴラには千葉の自滅と書かれてましたが、岐阜が千葉の攻撃パターンに対し徐々に対応できてきたのがむしろ正解でしょう。最終ラインの奮闘が光りましたね！千葉の両外国人は空回りしてました。次戦も厳しいプレスを継続できるかが勝利のカギを握ってます。暑さの中コンディショニング調整は難しいでしょうが最後まで足が止まる事のないよう祈ってます！（ミスター珍道）

●前回の敵地フクアリでの試合は残念ながら現地で観戦してないため、幸いにも僕の「千葉戦」は去年の天皇杯、ベスト8を勝ち取った、あの一戦しか記憶にない。しかし、あれはいわゆる「ジャイアントキリング」だったと思うし、フクアリでは雪辱に燃えた千葉に完敗したらしいし、その千葉は現在3位と上位なので、今日は厳しい対戦になる…と思っていた、当然ながら。ところが、だ。確かに序盤から千葉に攻め込まれるし、逆に岐阜の攻撃はなかなか上手くいかない。でも、今日は選手達が集中していたし、昨年を彷彿させる勢いで走り回っていたと思う。そのため、徐々に岐阜の時間帯になってきたな…と思った頃、正吾が右サイドに流れて敵陣に駆け込み、グラウンダーのセンタリング。それを西川が押し込んで先制ゴール！周囲が大歓声に包まれる中、その得点シーンが、天皇杯の前半終了間際、染矢のグラウンダーのCKを吉本が押し込んだ得点シーンが蘇って、まだ前半なのに「今日は天皇杯の再来か？」と一瞬思ってしまった。

まさか、そう何度も…と、すぐに気を引き締めたのだが…試合が進むにつれ、その感覚は強くなってくる。前半終了時に千葉サポから聞こえてきたブーイングにも何となく聞き覚えがあった（苦笑）し、後半途中で（天皇杯の時と同じように）敵MF深井が交替した頃から、これが「既視感（デジャヴ）」って奴かな…と思うぐらい、千葉が縦に放り込むボールを守備陣が跳ね返し、G恭平がビッグセーブを連発し、全員が集中してひたむきに走り続ける試合。唯一違ったのは、試合終了直前に歌い出した「凱旋行進曲（アイーダ）」。確か天皇杯の時は、1点差で歌えなかった。今日もまだ1点差だけれど「今日は歌ってしまえ！」って事だな（笑い）…なんて想いながら歌うアイーダの痛快なこと。W杯による中断期間が長かったのも理由だが、強豪千葉を倒しての2ヶ月ぶりのホームでの「万歳四唱」は、実に格別だった。（ささたく）

◇【セカンド】門番と呼ばれるJFL屈指の強豪の、圧倒的な壁。 HondaFC 7-2 岐阜 Second【天皇杯1回戦】

●JFLと東海2部。普通に考えれば敵いっこない。なのにあんな期待感を持ったのはなぜだろう？それはおそらくセカンドの誰もが「本気でサッカーしてる」からなのだろう。結果は2-7という大敗だが、セカンドは90分間本気でHondaFCに闘いを挑み、ぶつかっていった。そして本気だからこそ、HondaFCはセカンドに対して本気で点を取りにきた。あの7失点はセカンドにとってはある意味勲章であり、また貴重な糧になる素晴らしい経験だったと思う。大切なのはこれから先、その経験から何を学び、自分達の中に活かしていくか。今後もセカンドから目が離せない！（鶴）

◇【U-18】G2リーグを戦っています。

●FC岐阜のユースU-18は9月4日に大垣市でG第7節「大垣西高校」と対戦し、2対4で敗れました。トータル1勝6敗。他の試合結果が判らないのでハッキリは言えませんが、ユースチームはG3リーグへの降格が濃厚となりました。ただリーグ戦はまだ2試合（9/11と18）あります。Jユースカップもあります。だからまずは目の前の試合を頑張れ！応援しているよ！！（シュナ）

長良川球技 メドウを10倍楽しむ方法

みんなの手拍子で



選手に力を!
～ご協力お願いします～

タオマフ大作戦!



選手入場時 ... 高く掲げよう
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオマフ」(タオルマフラー)で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。「メドウ劇場」では、観客のあなたも大切なキャストなのです。

1人でも多くの方に楽しんでいただくために

席をつめてお座りください



↑ 荷物は足元をご利用ください

通路での観戦は ご遠慮ください



小さなスタジアムなので、席もスペースも限られています。みんなが気持ちよい時間を過ごせるように、ひとりひとりがマナーを守って観戦してください。